

多摩ニュータウン八王子市域小・中学校施設 計画設計指針作成調査

平成4年6月

● 計画検討プロジェクト

- 八王子市教育委員会
- 住宅・都市整備公団 南多摩局
- 住宅・都市整備公団 東京支社
- 東京都立大学 上野研究所
- (株) 山手総合計画研究所

はじめに

本報告書は、多摩ニュータウンの八王子市域開発に伴って設置される義務教育施設の計画設計の考え方と、モデルプランを研究したものである。

近年の急速な科学技術の進歩、情報化、国際化、生涯教育需要の増大等の社会の急激な変化は、学校を巡る環境を大きく変化させている。一斉授業一辺倒のカリキュラムから、児童・生徒の個性や特徴を引き出す個別学習・グループ学習を取り入れたカリキュラムへの対応、地域コミュニティの中核的施設としての地域開放や、施設の複合化への対応、街並み景観との調和など、学校施設に対して新たな課題をもたらしている。

一方、多摩ニュータウンも日本有数の先進的都市開発地として、長年に亘る開発整備を継続しており、義務教育施設についても、社会の変化に対応した新しい施設の実現や、街並み景観の形成への参画などが要請されているところである。

こうした視点から今回の研究は、整備が目前の課題である13住区の小・中学校の計画だけにとどまらず、多摩ニュータウン八王子市域の義務教育施設の今後の計画指針、更には、八王子市の義務教育施設のあり方にも言及すべく作業を行った。

その指針の要点は、大きく次の3つに要約される。

- ① 個別学習・グループ学習にも対応できるオープンスペースを基調とした開かれた教室環境や、ワークスペースを中心とした特別教室群の構成など、21世紀の環境として必要な施設を文部省校舎補助基準面積の枠内で実現する。
- ② 地域社会に開かれた学校として、グラウンド・体育館・多目的ホール・クラブハウス・特別教室群などを積極的に生涯学習活動に開放できる施設計画を行うと共に、公共図書館など社会教育施設との複合化、校地の一体的利用を考慮してゆく。
- ③ 多摩ニュータウンの街並み形成に積極的に寄与し、児童・生徒・地域住民の多様な生活展開に応える核的存在となるよう、地域住民が親しみ易く、街路に豊かな表情を表出しうる校舎配置や、建物デザイン・屋外環境のデザインを行う。

こうした指針の基に13住区の小・中学校各1校が、具体的で実現可能な計画案として提案されている。

この研究の成果が、先ず13住区の小・中学校の実施設計に反映され、八王子市のこれからの義務教育施設のモデルとして実現することを、更には、今後の多摩ニュータウン八王子市域や市内各地の学校整備の指針として活用されることを願ってやまない。

東京都立大学 建築学科 助教授 上野 淳

尚、当研究会は、八王子市教育委員会・住宅都市整備公団の関係者で構成され、東京都立大学 上野 淳助教授の指導のもと、山手総合計画研究所が作業を行った。